

第4回メコン地域ワークショップ (2/26-2/28)

今年もタイ及びメコン地域周辺国の人身取引に関する課題や知見を共有するためのワークショップを実施しました。4回目となる今回のワークショップのテーマは「国境を越えた人身取引ケースにおける協力の強化—多国間の協力体制の改善による成功事例」で、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、日本において Momramdum of Understanding (MoU) や Standard Operating Procedures (SOP) といった2国間の協力体制が被害者保護、被害者の帰還・社会復帰、加害者訴追にどのように貢献しているかが各国から共有されました。

ワークショップにはタイのMDTメンバー60人に加え、カンボジアからは内務省、女性省その他、ラオスからは女性同盟、保健省その他、ミャンマーからは警察、職業訓練校、ベトナムからは労働傷病兵社会省といった各国の人身取引対策で鍵となる参加者が集まりました。



日本からは、内閣官房から淡路参事官補佐と警察庁の鈴木警部に参加いただきました。

淡路氏は日本政府による人身取引課題への取り組み及び2国間・地域間協力について発表され、鈴木警部は人身取引に対する日本の警察による取り組み体制、人身取引事犯取締のための2国間・国際協力の枠組みについて発表しました。メコン地域の人身取引に関する会議には日本の参加はそれほど多くないため、日本の事例の関心が高く多くの質問が寄せられました。



MoU や SOP が締結され、両国の人身取引関係者が頻繁に対面することによって、コミュニケー

ションが格段によくなり、公式・非公式にも打ち合わせが行われ、被害者の情報交換や帰還に関する過程がスムーズになったとの意見が出ました。また意見交換の中では、受入国として中国の存在が多く言及されました。



今年のタイ側のメンバーは例年よりも警察関係者及び検察からの参加が多く、質疑応答も活発に行われました。

**Live Our Lives (LOL) が損保ジャパン記念財団より助成受領**

人身取引被害者による自助グループである LOL は被害者支援に携わっています。同プロジェクトは2011年からタイのNGOである Foundation for Women (FFW)の傘下にある LOL と協力して被害者の視点を中心にした社会復帰とは何かを模索してきました。メンバー100人の内の約10人がリーダー格として育っていますが、被害者を支援することでお金をもらっている訳ではないので、常に資金繰りが課題となっています。

今回は幸運なことに JICA タイ事務所の推薦で、損保ジャパン記念財団 100 万円の助成を受けられることが決定しました。この助成金は、LOL メンバーが自分たちの体験をもとに説得力を持った自らの言葉で、人身取引被害者に対してどのような支援をしていくべきかを政府の政策に反映できる力をつけるための研修に使用されます。そして研修で身につけたスキルを基に 2 人の LOL メンバーが人身取引対策が協議される国際会議に参加する予定です。



(写真：2月21日 FFW 事務所にて引渡し式典)

被害者が被害者として保護を受けるだけでなく、被害者自身が自らの経験を基に他の被害者を支援し、政策や保護の在り方に提言していくことは重要です。この場をお借りして損保ジャパン記念財団様及び JICA タイ事務所に感謝を申しあげます。

第9回 COMMIT 政府高官会議

2月21日から22日にかけてバンコクで同会議が開催されました。COMMIT (Coordinate Mekong Ministerial Initiative Against Trafficking)とは、カンボジア、中国、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムの6カ国の政府が人身取引対策に協力して取り組むことを目的とした国際協力枠組みです。2004年に同6カ国で締結されて以来、UNIAP (United Nations Inter-Agency Project on Human Trafficking) を事務局として定期的に会合を開催しています。

第9回のテーマは「COMMIT プロセスや各国

の取り組みから、人身取引を撲滅するための協力と実践から得た教訓」でした。2日間に渡って、①2012年COMMIT参加国の人身取引対策の取り組み、②労働搾取による人身取引被害、③民間セクターの人身取引対策に関する取り組み、④被害者の社会復帰についての情報共有が行われました。

新専門家着任

上田専門家の任期終了に伴い、新しく石黒専門家が着任しました。石黒専門家よりご挨拶をさせていただきます。

「ご尽力された上田専門家の後任として赴任いたしました石黒洋平と申します。数週間前までは JICA パキスタン事務所に勤務しており、新天地での業務と生活の両方でそのギャップに驚く毎日ですが、このようなやりがいのあるプロジェクトに携わることができてとても幸せで感謝しております。すでにタイ側からはあだ名までいただき、関係者と力を合わせながらプロジェクトの終了に向かって力を尽くしたいと思いますので皆様どうぞよろしくお願いたします。」



パキスタン時代は「ヨン様」と呼ばれていましたが、タイでは「のび太」とあだ名が決まりました。

3月の予定

3月5日～9日： 百生専門家 第57回国連婦人地位委員会 (CSW) サイドイベント参加

3月13日～14日： カウンセリングスキルワークショップ (パヤオ県)

同通信はプロジェクトの進捗状況及び関連情報をお知らせする目的であり JICA やカウンターパートの見解を示すものではありません。禁転載。